横浜市立大学学術情報センター

貴重書
月替わり展覧会リーフレット
（133）

2022 年 10 月の作品は

「江戸案内図」①

展示テーマ

～江戸城歴代居住者は誰もが良く知る人々だった！？～

「江戸案内図」の中心で存在感を放っている「御城」という文字。かつて、この御城に誰が住んでいたかご存じだろうか。江戸時代の中心であった江戸の町を治めており、ここまでの大きな御城を所有した人物である。

もうお分かりだろう、徳川将軍である。

この御城・江戸城は長禄元年（1457）に上杉家の家臣・太田道灌（1432-1486）が建築し、大永 4 年（1524）以降に北条家の家臣・武蔵遠山が改修して北条氏の支城となった。しかしながら天正 18 年（1590）の豊臣秀吉（1537-1598）による小田原征伐により北条は滅亡、その後は徳川家康（1543-1616）が移り住み 15 代に亘って徳川家の居城となった。徳川が居城とした後もさらなる改修工事がなされ、江戸城が現在の姿になったのは家康から 35 年経った徳川家 3 代将軍・家光（1604-1651）の時代であった。265 年もの間、日本を治め最高権力を誇っていた徳川の時代が終わり、次にこの御城に住んだ人物は天皇であった。

ここで一つ疑問が浮かび上がる。天皇（朝廷）は元々、京都にある京都御所に居住していたのだ。桓武天皇（737-806）が 794 年に平安京に都を移してから天皇の住まいはずっと京都であった。ではなぜ現在、天皇の住まいは江戸城になっているのだろうか。以下では江戸城が皇居になった理由を明らかにする。

「江戸案内図」（１枚）

江戸時代末期
作者：岡田春燈斎（1786-1867）
出版地：京都
縦 10cm × 横 16cm
※オンライン画像は
右の QR コードより。

「江戸案内図」で描かれているのは、現在の練馬区・杉並区・世田谷区の一部を除いた東京 23 区と、埼玉県の南区・浦和区・緑区の一部、千葉の舞浜の一部にあたる。御城の周りには屋敷や寺が多く分布しており、大きな河川（現在の荒川）が通っているのが分かる。東京都（2016）の「荒川水系隅田川流域河川整備計画」によると「江戸幕府が開かれて以降、河川を利用した舟運が経済を支えた」という。海に描かれた６隻の船はこの様子を表しているのでないかと考える。

左下に書かれた「名所方角道方附」は日本橋からの距離を示しており、道方附の中心を日本橋と合わせると地図と照らし合わせて距離をみることが出来る。例えば、日本橋を中心に午前１時（牛）の方向にある「あざぶ」をみてみると、「一リヨ（一里余)」と書いてあるのが分かる。「一里」は、3927.27m（度量衡換算表より）なので、一里と少しの距離を意味し、麻布と日本橋は４kmほど離れていることになる。（裏面の図を参照）

ここからは古地図に描かれている御城が、後に皇居となった背景について話をしていく。この背景には、江戸という土地の優位性と当時の政府（明治新政府）の財政状況が大きく関係していた。この当時、国外からはアメリカやイギリス、ロシアなどの列強が押し寄せ、国内では弱体化した幕府に代わって天皇主体の政治に戻すことで外国を追い払おうという「尊王攘夷」派の勢力が倒幕の動きを見せていた。

内からも外からも押し寄せる圧により、幕府の政権は弱まっていった。薩摩藩や長州藩などの倒幕派は徳川幕府終焉後、明治新政府となり天皇主体の政治体制に戻そうと考えた。天皇の居住地である京都を再び都にするいう声が多くあった中、江戸を首都とする「江戸遷都論」を主張したのが前島密（1835-1919）であった。彼の主張は以下のものである。

1. 蝦夷（北海道）の開発をするにあたって距離が近く都合が良い
2. 江戸湾や横須賀などの複数の良港がある
3. 大阪に比べ土地が広大で都市開発がしやすい（当時、大久保利通（1830-1878）が提案した大坂遷都論も検討されていたため）
4. 大名屋敷や官庁を新政府の役所に、江戸城を皇居にあてがうことが出来る

新たな開発をする余裕がないほど深刻な財政状況にあった新政府にとって前島の案を受け入れない手はなかった。

また遷都において最も重要な点は「都をどこに移すか」ではなく、政治を行う者である「天皇がどこを拠点とするか」であった。「東京遷都論」が採用された理由には、上記で述べた理由の他に、京都の「使えるものは何でも使って、都合の悪いことには反対していく」という粘っこい土地柄と伝統を重んじる風土が、大改革を目指していた新時代の政治にそぐわなかったからだと佐々木は述べている。こうして土地条件や財政状況に加え天皇主体の政治のしやすさを考えた結果、新時代の都は江戸に決まり、江戸城は天皇の住まいとなったのだった。

参考文献

・神奈川県立近代美術館「岡田春燈斎；玄々堂」（http://www.moma.pref.kanagawa.jp/webmuseum/dicDetail?cls=author&dataId=1778）（2020 年 7 月 22 日閲覧）
・かゆみ歴史編集部（2019）「第 64 回【歴史】江戸城はいつから天皇の住まいである皇居になったの？」城びと公益財団法人日本城郭協会公認（https://shirobito.jp/article/779）（2020 年 7 月 22 日閲覧）
・環境省「特別城趾江戸城」（https://www.env.go.jp/garden/kokyogaien/1_intro/his_01.html）（2020 年 7 月 22 日閲覧）
・宮内庁「京都御所など」（https://www.kunaicho.go.jp/about/shisetsu/kyoto/kyoto.html）（2020 年 7 月 22 日）
・佐々木克「首都機能移転問題と「東京遷都」」国土交通省（https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/onlinelecture/lec16.html）（2020 年 7 月 24 日閲覧）
・東京都（2016）「荒川水系 隅田川流域河川整備計画」（https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/temporary/content3/000007325.pdf）（2020 年 8 月 3 日閲覧）
・萩原ちさこ（2018）「太田道灌・徳川幕府・そして皇居へ　江戸城の歴史」城びと公益財団法人日本城郭協会公認（https://shirobito.jp/article/557）（2020 年 7 月 22 日閲覧）

あとがき　～貴重資料に触れて～

現在の地図と照らし合わせてみると、東京の街がほぼ江戸時代の姿、さらには麻布や八丁堀、押上などの地名を色濃く残していることに気づく。現代でも江戸時代を体感できるのは、東京の魅力の一つである。また皇居が江戸城であることを明らかにしたことで、皇居を今までとは違った捉え方ができるようになった。歴史を学ぶことで様々な面が見えてくるのは面白いと感じた。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。
※過去の展示はオンラインでも公開中です！

令和４年 10 月１日発行
令和元年度　日本文化論B受講生　編集
236-0027　横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学　学術情報センター

第 134 回展示は令和４年 11 月上旬からを予定しています。